



「普通のインフルエンザ」の考え方

笠間市立病院長 石塚恒夫

インフルエンザとは A 型・B 型インフルエンザウイルスによる感染症です。通常冬期に、高熱・頭痛・筋肉痛など全身症状を伴う急性呼吸器感染症の地域的流行を起こします。伝染力が強く、高齢者や慢性疾患患者では肺炎等を併発して重症化するため、普通のかぜと区別されます。もともとカモなどの水鳥に潜むウイルスなのですが、近年ニワトリなど家禽に全身感染を起こす高病原性鳥インフルエンザ(A 型・H5N1)が流行しています。人間にも若年層を中心に致死率 60% を超える感染が散発しており、人から人に感染する新型インフルエンザの発生は時間の問題とされます。H5 抗原に対する免疫は誰も持っていないため、大規模な流行が危惧されています。

それでは逆に、免疫を持っている通常のインフルエンザとはどのようなものなのでしょうか。現在 A 型では H3N2 と H1N1 の季節的流行がみられますが、主にかかるのは小児です。小児期に数回かかると、成人での発症は 10 年おき程度です。ウイルスの一部しか用いられない現在の予防接種は重症化を防ぐことが主な目的であり、流行株を予測したものを毎年接種しなければなりません。しかし実際に感染すれば、普遍的な免疫が長期間持続するのです。また高齢者等を除けば抗ウイルス薬を

服用しなくても 1 週間弱で自然に治ります。小児で脳症の発生が問題になりましたが、強い解熱剤を服用したことが主因とされます。つまり、ある程度の免疫力(体力)があれば、症状の強いかぜ程度で済むのです。1918 年のスペイン・インフルエンザ (H1N1) のように、今までも数十年おきに新型インフルエンザの世界的大流行がありました。最初は若年層を中心に致死率の高い重症感染症を引き起こしても、徐々に病原性の低いウイルスになっています。ウイルスにとっても致死率が高い状態は本意ではなく、人間と共存したほうが子孫を長く残せるのです。現在の段階で、いつ・どの新型インフルエンザがどのような病原性で発生するのかわかりません。しかし過度に恐れるのも無関心であるのも禁物です。スペイン・インフルエンザ流行時に、休校や集会の禁止、マスク使用の強制などの対処を早期に行った地域で被害が少なかった事実に学ぶべきでしょう。初期対応が重要なのです。個人レベルでも、学校・職場・家庭での感染予防について考えてみましょう。通常のインフルエンザが流行しない地域は、新型が発生してもうまく対処できるでしょう。

笠間のがんばる企業紹介⑥

笠間市には、全国でもトップクラスの技術を持つ企業がたくさんあります。このコーナーでは、より良い製品づくりを目指して研究・開発に取り組む市内の企業を紹介いたします。

（株）笠間ソフトメン橋本屋

「ソフトメン」といえば、今も昔も学校給食の人気メニュー。大人になっても、あの独特の味を懐かしむ方も多いのではないのでしょうか。石井地内にある（株）笠間ソフトメン橋本屋では、県内の多くの学校に給食としてソフトメンを納めているほか、全国のレストランやラーメン店にうどん・そば・ラーメンなどの業務用めんを出荷し、好評を得ています。

元々は老舗の旅籠だった同社が、食品の製造を始めたのは昭和 30 年代。当初はアイスキャンデーなど様々な食品を製造していましたが、学校給食として急速に普及しつつあったソフトメンの製造をきっかけに、めん専門メーカーとしての道を歩み始めました。

現在では、ソフトメンを作る専用の小麦が開発されていますが、製造を始めた当時は様々な取決めがあり、めんに適した小麦を使用することができませんでした。そうした逆境の中にあっても、おいしいソフトメンを作るための様々な工夫を重ね、子どもたちの期待に応えてきました。

笠間市で生まれ育った 2 代目社長・石上清代表取締役にとっ

て、ふるさとは豊かな食の宝庫です。「地域の食文化は、その土地柄、気候、歴史や文化が長い時間をかけて作ってきたものです。派手さはないかもしれませんが、素材で温かい土地柄をそのまま受け継いだお袋の味。それが笠間の味だと思います。祖先から伝わる豊かな味と伝統を後世に引き継ぐこと、それがふるさとで働く私たちの使命です。」(同代表取締役)



同社の製品を手にする従業員の皆さん

（株）笠間ソフトメン橋本屋
従業員数▼36人

敷地面積▼1,800㎡

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線562)